

「シンデレラ夢実行委員会」

■ 事業者の概要

- 所在地 : 常呂郡佐呂間町
- 運営主体 : シンデレラ夢実行委員会
- 取組内容(分類): イベント開催
- 【ホームページ】: <https://yumesaroma.jimdofree.com/>
- 【Facebook】: <https://www.facebook.com/c.dream.saroma/>

■ 経緯・内容

○1988年に第1回を開催。当時の町長とJA組合長らが、「お金は出すけど口は出さないの、住民が楽しめる、何か面白いことをやってみては…!」との一言がきっかけとなり、「シンデレラ夢まつり」が始まった。



巨大カボチャがずらり

○例年、9月の第1土曜日に祭を開催。「パンプキンコンテスト」、「仮装パレード」、「舞踏会コンサート」など、様々なイベントが行われている。800発の花火を一気に打ち上げる「おもいきり夢花火」も人気があり、外出ができず花火を見る機会が少ない入院患者や老人施設にいる高齢者が、施設内で花火が見ることができ喜ばれている。

■ 活動について

- 年ごとの予算(寄付額)に合わせ、「自分たちがやりたい」企画を実施している。
- 12年前から町の有力者は実行委員会からはずれてもらい、町内多方面からの支援・支持を受けやすくなった。

■ 活動継続の秘訣

- 毎年必ず祭を開催するとは決めず、4月の会議で開催の有無を決定。
- 実行委員はあくまでも個人の意思で参加しており、「自分たちがやりたいことをやる」のがポイント。
- 子供を祭の中心に据え、学年毎にパレードの内容を変えることで、魅力的な演出となっている。パレードに参加した子供達が後に実行委員となるなど、参加の連鎖効果も生んでいる。
- 町民が自ら参加する町内向けの祭と位置づけ、「自らが楽しむ祭」としての自由な発想が独自性を発揮したことで、町外へのPR・集客効果にもつながっている。

■活動の成果

- 高校生や老人会が祭を手伝うなど、世代を超えた交流が生まれている。
- この祭は、多くの町民にとって、あって当たり前の楽しみな祭として定着している。
- 実行委員の新陳代謝が適宜図られ、その新鮮な発想は地域の活性化に寄与している。また、町に転入して間もない実行委員であれば、祭の準備に参加することで地域に馴染むことができたり、若者の人間力を高めるなど、人材育成の側面も出ている。
- 町一番のイベントは、地域住民のコミュニティの活性化に貢献しており、地域の学校、老人クラブ、商業者、農林漁業者等、幅広い連携協力が得られていることも魅力である。

■今後の展望

- 「シンデレラ夢まつり」が、子供達の心に良き記憶となり、町を巣立った子供達が、「祭りがあるから帰省する」ようなイベントとして、今後も地域住民の目線に立ち進めていく。
- 親となった祭の参加者が自分の子供を参加させる、町を出た親子が祭のため帰省するなど、人の交流や世代の循環を念頭に、活動をしていきたいと考えている。

●まとめ

- 毎年反省はするが、翌年に引きずらないこと、自分たちが楽しむことを第一に考えて活動してきたことが、長期間「祭」を継続できた最大の要因と思われる。
- 祭の時期には必ずと言っていいほどTV等で紹介されるなど、佐呂間町の知名度は確実にアップしており、PR効果を発揮している。
- 地元の異業種の連携は、祭が継続される原動力となっているほか、町の特産品を活用した住民参加型の取組は、地域に親しまれるものとなっている。
- 特産のカボチャを祭のシンボルと位置づけ、そのカボチャとシンデレラを題材に、バリエーション溢れるイベントの数々は、子供達の心をつかむ工夫がなされており、継続して祭へ参加する源となっているほか、今は親となったかつての子供達の帰省につながるなど、人の交流、世代の循環を形成する礎になっている。



◇お話をいただいた
菊地事務局長 (R2.2.5 取材)

